

「教育」の視点から見るモザンビーク

～これからの教育の在り方に迫る～

愛媛大学附属高等学校・飯田夕和

研究の背景

小学5年生の時にウガンダの子どもたちに出会い、**教育は「夢」と「希望」を与える**と知った。その時から、教育に着目している。そして、高校生になり、モザンビークという国を知り、モザンビークの教育に着目するようになった。調べても、情報が少なく古かったため、**現地を教育の視点**から、自分の目で見たいと思った。

方法

【渡航前】

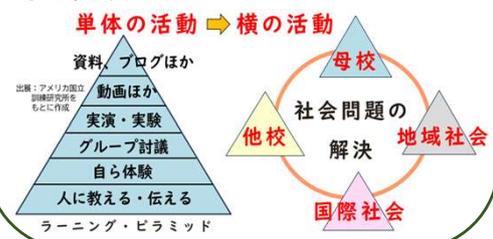
- ・高校のモザンビーク班で「教育」をテーマに**調べ学習**
- ・ポルトガル語の学習(3回)
- ・交流グッズの作製
- ・支援物資の回収
- ・フェアトレードの勉強会に参加 など

【渡航中】

- ・4校の**学校訪問・交流**(小学校:3、中等学校:1)
- ・村の子どもたちの**身体測定**
- ・村の子どもたちとの交流
- ・足踏みミシンの体験
- ・日本大使館木村大使と姉妹校提携についての意見交換 など

【帰国後】

- ・帰国報告、交流、展示、意見交換 など
- ・令和5年度 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会
- ・第9回「ハッピー・モザンビーク・デー」
- ・第12回高校生国際ESDシンポジウム
- ・Let's talk about FAIR TRADE
- ・ユースとの対話・連携による未来創造
- ・第16回地域教育実践交流集会
- ・国際会議 ESD Youth Summit 2023
- ・ローカルSDGsキャンパス・ミーティング
- ・**教育機関(学校対象)**(小学校10回・中学校1回・高校7回・大学1回)
- ・モザンビーク全国紙「ノティシアス」の社会面編集長へ
- ・**「姉妹校提携案書」提出**
- ・モザンビーク研修生と教育についての意見交換



目的

- ①教育が与える影響を知る
- ②教育の可能性を追究する
- ③教育の分野において自分ができることを見つける

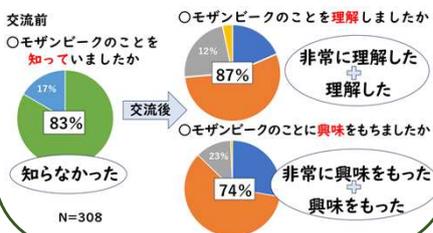
結果

貧困、インフラ開発、児童労働、ごみ処理などの社会問題の数々は教育を受けていなければ起こらないで済む問題だと感じ、「**教育が原点**」であると学んだ。

義務教育期間を十分に終えられない子どもたちがいることを目の当たりにして、**幼少期の義務教育期間**を大切にすることが重要だと学んだ。

教育の分野において、現地の教材・教員不足等の課題を知る一方で、日本の良さは、「**教育の浸透性**」、課題は「**学習意欲**」と「**主体性**」だと気づいた。

報告会を行った小学生・中学生・教員308名対象にアンケートを実施した。交流前は、モザンビークを知らない人が83%だった。しかし、交流後、理解した人が87%、興味関心を持った人が74%となった。「**全ては知る**ことから始まる」「**自分事として捉える**ことの重要性」を実感した。



これから

私の夢は、「**教育**」によって**子どもたちの可能性を広げること**だ。教育は循環していると感じたため、これからもモザンビーク渡航を通して得た学び、経験を発信していきたい。私の目標は、今後も「**教材開発に携わる**」こと、「**学習意欲**」「**自主性**」と「**話し合う**」こととの**関係性を見出すこと**だ。教育を受けられていることに感謝し、特に教育分野においてできることをしていく。

準備物

- ・「教材」を用いた交流グッズ
- ・Friendshipキューブ
- ・パタパタ
- ・牛乳パックさいころ(ポルトガル語)
- ・変わり絵(ポルトガル語)
- ・紙芝居(ポルトガル語)
- ・指人形(ポルトガル語)
- ・折り紙(カエル、こま)

考察

日本の教育現場では、自分の思いや考えを「**言葉にして伝える**」「**話し合う**」ことが少ないのではないかと感じた。「話し合い」を重ねる事で、他人を「**知り**」「**理解する**」しながら自分の「**考え**」や「**思い**」を積極的に発言できるようになり、それが「**自主性**」に繋がるのではないかと感じた。だからこそ、「**話し合える場所**」「**話し合える関係**」を築ける教育現場を目指す必要がある。

今回、モザンビーク渡航にあたり、事前準備として色々な教材の製作、帰国後は魅力ある展示ブース作り、体験を教材へ形にする…など、自分の思いや考えを相手に伝える工夫を凝らして形にしてきた。それは、自分の幼少期の遊びの中で「**考えを形に**」していたことと、とても重なっていると感じた。また、モザンビーク新聞記者との意見交換においても、義務教育がいかに大切かを学んだ。それらのことから、**幼少期の過ごし方はその後の成長や可能性に大きく影響しているのではないかと考える**。

謝辞

えひめグローバルネットワーク様、訪問させて頂いた学校の皆様をはじめ、私の活動に携わり、支えて下さった全ての皆様にお礼申し上げます。誠にありがとうございます。